

ご存じでしたか？カリブ共同体諸国のおあれこれ。



ジャマイカで誕生したレゲエ音楽は世界中で愛されています。R&B、ジャズ、ソウル、ヒップホップなどとのクロスオーバーも見られ、非常に存在感があります。近年日本でも人気が高まっており、毎年夏に開催されている横浜レゲエ祭は三万人の入場者数を誇ります。

ハイチの絵画は、人々の日常生活や農村風景、動植物等を素朴かつ独特の作風で色彩豊かに描いており、フランス人作家アンドレ・マルローが「第一級の芸術作品」と絶賛したように、フランスや米国で高い評価を得ています。



美しい海に面したカリブ共同体諸国は気候も温暖で世界有数の観光地。例えば、セントルシアでは世界遺産であるピトン山を眺めながら美しいビーチでディナーを楽しむことができ、新婚旅行の行き先として世界中の人々から高い人気を得ています。



カリブの海賊たちが愛したラム酒はアルコール度数が高く、「大人のお酒」というイメージが強いですが、ラムベースのカクテルであれば、とても飲みやすく、最近では日本でも大変人気のあるお酒の一つになっています。



トリニダード・トバゴで誕生したスティールパンは南国らしい心地よい音色を持ち、演奏に取り入れる有名アーティストも増えています。



ベリーズの世界遺産である珊瑚礁保護区は人気のダイビングスポット。中でも直径313mもある「ブルーホール」は世界的に有名です。



トリニダード・トバゴのカーニバルは、世界で最も有名なカーニバルの一つ。このカーニバルは誰でも飛び入りで参加でき、またカリブ海周辺で最も普及している音楽のカリプソもこのカーニバルを通じて発達しました。



日本とカリブ共同体諸国の交流

日本とカリブ共同体諸国との緊密な関係

日本は、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ、ハイチに大使館を設置し、カリブ共同体諸国との友好関係を促進するために、日々連絡を密にしています。また、「日・カリコム事務レベル協議」をほぼ毎年行っているほか、2013年9月には「第3回日・カリコム外相会合」を実施しました。これからもあらゆるレベルで活発な意見交換と交流を行っていきます。



日本とカリブ共同体諸国の協力

日本とカリブ共同体諸国との緊密な協力関係は、近年益々発展しています。カリブ共同体諸国は、日本と同様に島国・海洋国家であり、ハリケーンや地震等の自然災害の被害を受けやすいため、これらの問題への対応が国を発展させていく上で重要な課題となっています。このような中、日本は、知見や経験を活かし、防災対応能力向上のための技術支援をはじめ、防災、環境分野を重点分野とした協力をしています。また、小島嶼国にとって深刻な問題である気候変動問題では、活発に発言するカリブ共同体諸国との対話を重視しています。日本は、国際的な問題に対して共同歩調をとることも多いカリブ共同体諸国と経済協力だけでなく、国際社会の共通課題についても、協力を深めています。



Trivia of the Caribbean

★カリブと聞いて、映画「バイ례ーツ・オブ・カリビアン」を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。映画に登場する美しい景色の多くがドミニカ国やセントビンセント及びグレナディーン諸島などのカリブ共同体諸国で撮影されました。

★史上最速のスプリンターとして、オリンピックでは100m、200m、4×100mリレーの三冠を二大会連続で達成しており、合計6個の金メダルを獲得しているウサイン・ボルト選手はジャマイカ人。ジャマイカは、オリンピックで金メダルを17個獲得しているスプリント王国です。

★トリニダード・トバゴには世界最大規模で極めて上質な天然アスファルトが湧き出る「ピッチ・レイク」があり、毎日約180トンが採掘されています。日本でもレインボーブリッジを始め多くの橋の路面に使用されています。

★セントビンセントの首都キングスタウンの漁港には、日本の水産無償協力で建てられた魚市場があります。この魚市場一帯は「リトル・トウキョウ」と呼ばれ、多くの市民が魚を求めてやってきます。

★カリブ共同体諸国の中でも有数の観光国であるバハマ。アカデミー主演男優賞を受賞した俳優のシドニー・ボワティエ氏が初代駐日大使を務めました。